

日本胸部外科女性医師の会
(Women in Thoracic Surgery in Japan)

2008 年度活動報告

東京女子医科大学 富澤 康子

東京大学 齋藤 綾

草津総合病院 林田 恭子

はじめに

＜大学病院の人手不足＞、＜地域病院への派遣医師引き揚げ＞といった医師不足の問題は今や各メディアでも取り上げられ、サービス残業や当直を含めた現役医師の労働環境の悪さ、契約の不透明さなどにも視点が集まるようになった。それとともに、各分野における女性医師への期待が高まってきていることも事実である。

このような背景のもと2006年に設立、活動を開始した、日本胸部外科女性医師の会 (Women in Thoracic Surgery in Japan, WTS in Japan) は、会の目標を以下のように掲げている。

「会員、特に女性医師、相互の連携および他の学会との連携を計り、胸部外科領域における女性医師の臨床面および研究面での **career** 確立・発展を助長し、幅広く胸部外科領域における医療・医学に貢献することを目的とする。」

本会は、学会関係者各位のご高配を賜り、このたび3回目の集会開催に至った。若手医師の教育と人材の確保は言うまでもなく、経験を積んだ女性医師の円滑な職場復帰、キャリア向上の為に体制を整えていくことは、今後より良い医療の提供へつなぐと確信する。胸部外科領域の女性医師が抱える問題を取り上げ、支援し、一人でも多くの先生方に役立つ集会に発展できればと、世話人一同考えている。

活動状況

- 2005年 12月 会の設立を発案（齋藤、高本）
- 2006年 1月 日本胸部外科学会理事会へ日本胸部外科女性医師の会の設立・
日本胸部外科学会総会期間中の集会開催について申請、承認
- 4月 テルモハート・野尻、発起人へ
- 5月 東京女子医科大学・富澤および京都府立医科大学・林田、
発起人へ
- 10月 4日
第1回日本胸部外科女性医師の会集会（東京）
（第59回日本胸部外科学会定期学術集会のサテライトとして）
講演演者：Dr. AJ Carpenter、野尻
- 2007年 10月 20日
第2回日本胸部外科女性医師の会集会（仙台）
（第60回日本胸部外科学会定期学術集会のサテライトとして）
講演演者：Dr. MD. Allen
- 2008年 2月 6日
胸部外科医処遇改善委員会の中に女性医師支援に関するワーキンググループを立ち上げた。
- 2008年 3月
第2回日本胸部外科女性医師の会集会報告書作成
- 2008年 5月
第2回日本胸部外科女性医師の会集会報告書送付
- 2008年 10月 13日
第3回日本胸部外科女性医師の会集会（福岡）
（第61回日本胸部外科学会定期学術集会のサテライトとして）
- 2008年 11月
第2回日本胸部外科女性医師の会集会報告書作成

第3回日本胸部外科女性医師の会集会

2008年10月13日 7:00-8:00 (福岡サンパレス 2階 平安の間にて)

主催：日本胸部外科女性医師の会

共催：日本胸部外科学会

参加者：13名 (ご芳名あり)

プログラム (敬称略)

開会の辞 富澤 康子 (東京女子医科大学)

「 医学会分科会所属学会における女性医師支援 」

富澤 康子 (東京女子医科大学)

「 日本胸部外科学会女性会員アンケート調査結果報告 」

富永 隆治 (九州大学)

閉会の辞 白日 高歩 (福岡大学)

講演概要

「医学会分科会所属学会における女性医師支援」

富澤 康子 (東京女子医科大学)

スライドを供覧し、医学会分科会における女性医師の現状について講演。

荒木幼葉子ら(女性医師の学会活動の現状. 医学教育;2002:51-57 より引用)によると、日本医学会に加入している92学会に調査したところ、女性医師の、評議員・理事などの学会役員選任率は低かった。

橋本葉子によると(女性医師と病院. 女性医師と医療.病院;2002:700-703 より引用)、1、2000年医学部における教授、助教授、講師の女性は4.1%と少ない、2、専門医、認定医取得率が低い、3、学会託児所設置が低率。資格更新期間の延長条件に妊娠出産が含まれない、などの現状がある。

富澤康子医師より文部科学大臣へ女性医師待遇改善を要請する手紙を送付したところ、回答書が送られてきた。男女共同参画基本計画(第2次)では、指導的地位に女性医師が少なくとも30%程度になること、学術・研究分野における女性医師の参画が促進することを広く関係機関に協力を要請する、と決定されている。しかし、学会については個々の学会の運営が学会自らの判断により行うため・・・文部科学省より要請するものではない、という内容ではあったが、返書をいただけるだけの一理があったと考える。

また、日本外科学会代議員282名(男性281名、女性1名)に行ったアンケート結果を供覧。女性外科医師が一人もない病院が、国立病院で25%、自治体病院で12.5%、大学病院で10.5%を占めた。逆に公的病院と私的病院で女性外科医師が一人もないところはなかった。女性医師が働きやすい条件を整える上で、職場環境や条件の改善や、保育施設の充実について取り組むべきとする回答が多かった。しかし実際医師が使用できる保育所を設けている病院あるいは施設は、147施設中81施設にとどまり、ない場合でも今後設置する予定のない施設が29施設にのぼった。

日本外科学会女性外科医師支援委員会が、医学会分科会の105学会に対し、本年8月に行ったアンケートの中間報告の紹介。学会開催時の託児所設置を必要だと考えている学会は2008年度で45学会(67%)、実際に設置しているのは28学会であった。2000年に行った調査時が7学会であったことを考慮すると、女性外科医師の労働環境整備への関心はすでに高まっていると考えてよいだろう。しかし、女性医師の評議員数、役員数、編集委員数を調べてみると、外科系学会では数%を占めるにとどまり、とくに日本胸部外科学会においてはいずれも0%であった。

日本外科学会、日本循環器学会をはじめ、各学会で女性医師支援への声が高まっている中、日本胸部外科女性医師の会も本年度ホームページが立ち上がった。さらに広く活動を続けいく。

「日本胸部外科学会女性会員アンケート調査結果報告」

富永 隆治（九州大学）

今年、胸部外科医処遇改善委員 女性医師の労働環境を考える支援ワーキンググループにより行われた、日本胸部外科学会女性会員を対象としたアンケートの結果をスライドに示す。

アンケート回答は30代医師が最も多く、一般病院、大学病院に勤務している医師が大半を占めていた。

女性医師の待遇改善支援策を必要とする回答は83%に至り、たとえば学会期間中の託児所設置について必要と答えたのは70%であった。それに対し、推薦評議員女性枠の設置や理事会における女性枠の親切の必要性をくどちらともいえない、もしくは不要と答えたのは約70%であった。女性医師の出産、育児、介護休職の復職のため、パートタイム制度（非常勤あるいはフレックス制度）を必要とする回答は70%であった。

女性医師と学会資格、専門医資格については、女性医師は男性医師と同等でよいという回答が圧倒的に多かった。一方、妊娠、出産、育児による専門医資格更新期間の延長を認めるべきという回答は77%であった。

職場環境についてのアンケートでは、現在の環境を満足とする回答は20%、まあまあは44%、不満は23%、大いに不満は6%であった。上司、同僚から不利益を受けた経験については、パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、性差別、意見が通らない、同期の男性医師より手術をさせてもらえない、などがあがった。

女性であることで、患者さんから不利益を感じたことがあるとした約半数であった。しかし、女性医師でよかったと感じることがある、とする回答が78%に及び、女性医師であることで女性患者の信頼を得た、などの具体例が紹介された。

出産、育児休暇の体制について、育児休暇は取得しやすい雰囲気か、という質問には、はいと答えたのは15%に過ぎなかった。産休、育児休暇中の支援システムが、病院、医局に整備されていない、という問題点がある。出産、育児休職後の復職が、自分自身の状況では可能か、との質問へは、可能とする回答は多く、フレックスタイム制、パートタイム制であれば可能とする回答も多かった。復職への支援策は必要だと思うか、という質問へは85%が必要である、と答えた。

以上のアンケート結果を、学会期間中に行われる、胸部外科医処遇改善委員会にて協議し、女性医師の待遇改善策を打ち出しいく。

今後の展望

医療現場における女性医師の役割については、胸部外科領域のみならず医療界全体の問題として社会的にとらえられるようになった。胸部外科領域については、職種・性別を問わず様々な立場の方々と考える機会を持つことが出来たと思われた。

女性医師にとって胸部外科医としての生活と家庭人として生活を両立させることは簡単なことではない。解決策の一つとして、年々増加する女性胸部外科医らが個々に積み重ねている様々な経験を何らかの機会を通じ共有することは非常に意義が大きい。今後本集会を継続的に開催し、情報・意見交換の場を提供することで、更に女性医師たちが自然にかつ積極的にこの領域において活躍できるよう、支援していきたい。

今後の会の運営については、本年度同様、日本胸部外科学会定期学術集会の公式サテライトとして集会を開催し、情報ネットワークを広げていく。また、本年度より、日本胸部外科学会において、胸部外科医処遇改善委員 女性医師の労働環境を考える支援ワーキンググループが発足した。本会は胸部外科医処遇委員会とも連携し、様々な立場の女性医師の抱える問題や意見を反映していきたいと考えている。

会計報告

収入

参加費	26,000 円
前年度繰越金	円
計	円

支出

通信費	円
会場費（設備使用料含）	円
次年度繰越金	円
計	円

発起人・顧問

発起人： 富澤 康子 (東京女子医科大学 心臓血管外科)
齋藤 綾 (東京大学 心臓外科)
林田 恭子 (京都府立医科大学 心臓血管外科)

顧問： 高本 眞一 (東京大学心臓外科 教授)
田林 暁一 (東北大学心臓血管外科 教授)
四津 良平 (慶應義塾大学心臓血管外科 教授)
富永 隆治 (九州大学 心臓血管外科 教授)

2008年度 日本胸部外科女性医師の会
会員集合写真





富澤康子先生 ご発表

富永隆治先生 ご発表



閉会の挨拶
第61回日本胸部外科学会会長
白日高歩先生

